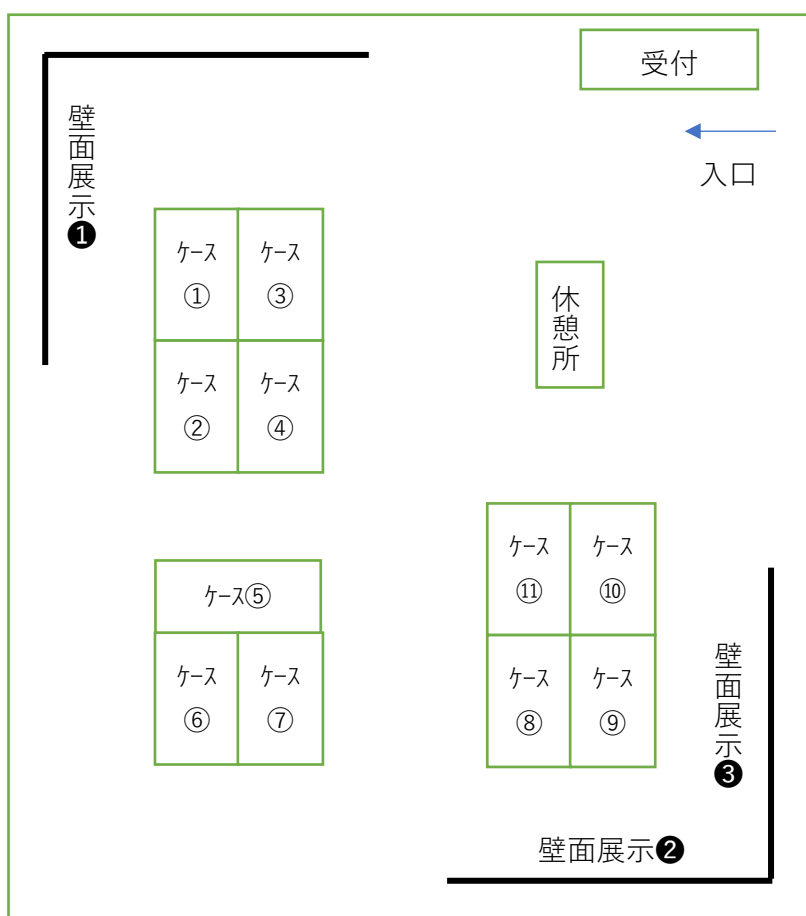


第34回 近代文学館企画展

「近代の俳句・現代の俳句」

令和5年3月25日(土)～26日(日) 於高山市図書館「煥章館」

[会場レイアウト]



主催 一般社団法人 高山市文化協会 共催 高山市

分類	内容	付記	場所
【小峰大羽資料】		小峰大羽・経歴紹介	①
絵図	小坂御料林造材及運材図	御料林伐採及運材(川流)図 説明入り	①
絵図	運材図絵の下絵か? 裏面はスケッチ		〃
絵図	小坂御料林造材及運材図の下絵(鉛筆画)		〃
書面	「小峰大羽」俳句集発刊の同意書	大羽先生後援会より	〃
雑詠	「賓臚辿れば梅がふと匂ふ」他		〃
封書	東京市服部耕石氏より、小峰大羽様宛		②
封書	大野赳史拝 大羽先生		〃
俳誌	「笏俳句」七月号		〃
はがき	住廣造氏より、小峰大羽様宛		〃
はがき	小峰邦寿(大羽)氏より、小峰婦喜様宛		〃
封書	名古屋市善昌寺より、小峰婦喜様宛		〃
句集	「法樂」小林一茶位牌堂建立奉献句		〃
封書	小林一茶位牌堂建立に際し奉献する俳句の依頼状	小林重信氏から小峰大羽宛	〃
目録	小峰大羽先生新作画賛展覧会(S14/5/1・2)	新愛知新聞社後援 名古屋市公会堂	〃
記事	「飛驒俳人史」-小峰大羽 日下部宵三記	高山市民時報 S56/9/13付	〃
句集	「大羽樓句集」	画賛展覧会記念 S14/5	〃
句集	俳句大観「秋」	星野麦人・小峰大羽編 M35/9	〃
俳誌	「五月山」	小峰大羽没一周忌記念 S21/8/24	〃
俳誌	「五月山」(小峰大羽句碑除幕・小峰大羽展記念復刻 H8.9.22)		〃
写真	小峰大羽肖像写真		〃
色紙	「寒梅のつぼみかたきに魚板鳴る」絵「水仙」		③
色紙	「五月雨や据風呂いぶる山の宿」絵「蝸牛」		〃
色紙	俳画「ぬるむ水家鴨なきたてゝ濁らせり」絵「ツツジ」		〃
色紙	俳画「酔ひ泣きすひとり紫苑の夕ごろ」絵「人物」		〃
色紙	俳句「蝙蝠の夕空を子のないて来る」		〃
色紙	俳画「松風や木地のろぶちに気の澄める」絵「椿」		〃
色紙	俳画「下がりのすゞしき露に鎌握る」絵「ささゆり」		〃
色紙	俳画「風ののしりて北窓ふさぐ記を草す」絵「梅」		〃
色紙	俳画「ころもかへてこの頃の鯉のふとり見る」絵「緑の葉」		〃
色紙	俳画「露にぬれて大またに草ふみ行く」絵「蓮の葉」		〃
色紙	俳画「上げ汐の岸たふたぶと草涼し」絵「柳に螢」		〃
色紙	俳画「螢行くやぼつぼつ顔にあたる雨」絵「川」		〃
色紙	俳画「わか草に鹿ねつ我もねむたき日」絵「蒲公英」		〃
色紙	俳画「家鴨なきたてゝ濁る水」絵「おたまじゃくし」		④

分類	内容	付記
色紙	狐の絵	④
色紙	俳画「あかとき漁村やすらに」絵「鶴」	〃
色紙	俳画「短日の絵具乾かず筆を擱く」絵「椿」	〃
色紙	風景画(水彩画)	〃
色紙	俳画「曙によき正月や漁夫が歌」絵「海辺船」	〃
色紙	俳画「洗はれて馬が帰るよ夏の月」絵「柳の枝」	〃
色紙	俳画「初日影なみのうねりに乗せて来る」絵「松」	〃
色紙	俳画「白ざけの酔かるく児と遊びけり」絵「梅香合」	〃
色紙	俳画「梅の老木まどにかげして静なり」絵「俳人」	〃
色紙	俳画「この海戦果ことほぐ大初日」絵「日の出」	〃
短冊	俳句「涛音の岩におさまり初日さす」	〃
短冊	俳句「二月禮者梅花に酔をふいて去る」	〃
短冊	俳句「掃苔の石冷に墓」	〃
春慶塗	句入会席膳「ニ夕寛おち合へり芹等閑に」	⑤
春慶塗	句入会席膳「柊のとがり葉に月の庭凍つる」	〃
春慶塗	句入会席膳「杵音に忘年会の髭を剃る」	〃
春慶塗	句入会席膳「露にぬれて大またに草踏み行く」	〃
春慶塗	句入会席膳「縁そこら水にして金魚掴み居り」	〃
春慶塗	句入会席膳「赤とんぼ次ぎつぎに畦まめをひく」	⑥
春慶塗	句入会席膳「雪の陽をうけてまぶしくわかなつむ」	〃
春慶塗	句入会席膳「向ふやま雉子なけり川手水する」	〃
春慶塗	句入会席膳「板やねのそりかれ柳の影つくる」	〃
春慶塗	句入会席膳「夏草に一路あり登山くちと知る」	〃
板	旭日春雀 大羽題	〃
目録	春慶塗句入り銘々皿目録10句 小峰成晴氏蔵	⑦
春慶塗	句入銘々皿「山の気にはつきり目さむ今朝の秋」	〃
春慶塗	句入銘々皿「夜冷ます瀬音に河鹿まきれなく」	〃
春慶塗	句入銘々皿「山深く秋の気津のる笠のぬれ」	〃
春慶塗	句入銘々皿「土用山入道雲を背に光る」	〃
春慶塗	句入銘々皿「川音の雨音に似て夜の秋」	〃
春慶塗	句入銘々皿「音あれば響き反すや峽の秋」	〃
春慶塗	句入銘々皿「黍に残る陽にかなかなの川へひゞき」	〃
春慶塗	句入銘々皿「夜の更けて踊寒むかる山の冷」	〃
春慶塗	句入銘々皿「朴の葉の大きくゆれて霧なかる」	〃
春慶塗	句入銘々皿「山夕立土の臭ひをまくし来ぬ」	〃

分類	内容	付記	
【小島幸男資料】		小島幸男経歴紹介	②
句集	第1句集『雪』	昭和53年発行	⑧
句集	第2句集『トロイの城』	平成2年発行、河叢書第140号	〃
句集	第3句集『死語と寝て』	平成8年発行、河叢書第192号	〃
句集	第4句集『天骨』	平成15年発行	〃
句集	第5句集『夕薄暑』	平成18年発行	〃
句集	第6句集『春星』	平成24年発行	〃
句集	第7句集『飛驒ならし』	平成30年発行	〃
短冊	「死の時 ^{つもり} の心算は妻に彼岸花」	『春星』掲載、平成21年	〃
短冊	「春星 ^{しゅんせい} につながむとて岬 ^{さき} に立つ」	『春星』掲載、平成17年	〃
短冊	「海の色に暮るる遠つ嶺春惜しむ」	『飛驒ならし』掲載、平成27年	〃
短冊	「手のひらに古鈴 ^{これい} さゝやく春の暮」	『飛驒ならし』掲載、平成27年	〃
短冊	「春望 ^{とほまちさめ} や遠街騒に昔うた」	『飛驒ならし』掲載、平成27年	〃
短冊	「たびら雪唯昨日ありと思ふべし」	『飛驒ならし』掲載、平成26年	〃
短冊	「赫 ^{かがや} きつ雲の流るゝ土用入り」	『飛驒ならし』掲載、平成25年	〃
まくり	「佛足石に双魚の住まふ梅雨晴間」	『死語と寝て』掲載、平成4年	⑨
まくり	「雪婆 ^{ゆきばんば} 人に寄りては崩れけり」	『死語と寝て』掲載、平成2年	〃
色紙	「下品下生町をめぐりて雪の山 ^{げばんげしょう} 」	『トロイの城』掲載、平成元年	〃
色紙	「水澄むや飛驒八方に峠持ち」	『天骨』掲載、平成8年	〃
まくり	「黙契の初雪と見て飛驒に住む」	『トロイの城』掲載、平成元年	〃
まくり	「雀蛤となる小切手の二本線」	『トロイの城』掲載、平成元年	〃
まくり	「雪の夜を死語と寝てゐる俳諧師」	『死語と寝て』掲載、平成7年	〃
まくり	「立ち上がるすべてが桜月の城」	『死語と寝て』掲載、平成5年	〃
色紙	「かはたれの声討ちて雪見参す」	『死語と寝て』掲載、平成5年	⑩
色紙	「うんどんに振る花かつを緑立つ」	『死語と寝て』掲載、平成6年	〃
色紙	「辻占のまた吉と出し親子かな」		〃
色紙	「龍門とへだつ濁世や除夜の鐘」		〃
色紙	「加護ありて地の虫と息合せをり」		〃
色紙	「たかが東京然れど高きに登り見る」	『天骨』掲載、平成13年	〃
色紙	「飛驒山の光と影や水温む」		〃
色紙	「楮 ^{かうぞから} 殻 ^{ゆきじょうろう} 夜は雪女郎ねたま合ふ」	『雪』掲載、昭和42年	〃

分類	内容	付記	
色紙	「雪と三日日記しるせば頁白らむ」	『雪』掲載、昭和28年	⑪
色紙	「北風に対きて伐採夫膝まげ通す」		〃
色紙	「飛驒人に雪降らぬ日も天せまし」	『雪』掲載、昭和30年	〃
色紙	「牡丹いま開かむとして抱き合へり」	『飛驒ならし』掲載、平成26年	〃
色紙	「冬銀河嶺の涯てなる越 ^{こし} の海」	『飛驒ならし』掲載、平成26年	〃
色紙	「日当れば蜂来てたかる花八手」	平成26年12月、土筆会月例会	〃
色紙	「夕闇に消えし案山子と酌みてをり」	『春星』掲載、平成22年	〃
まくり	「昔男ありけり妻と秋刀魚買ふ」	『死語と寝て』掲載、平成2年	②
まくり	「親鸞と酔ふて別れし蕪蒸」	『死語と寝て』掲載、平成2年	〃
まくり	「地平にはあをき逃げ水と一行」	『天骨』掲載、平成10年	〃
まくり	「大 ^{かさ} き量にまとはれ月も寝足らぬか」	『雪』掲載、昭和52年	〃
まくり	「貝寄風の岸に戻りし気仙沼」		〃
まくり	「佐久奈太理春ふりにけり野天風呂」		〃
まくり	「山がきて坐り直せる土用かな」	『死語と寝て』掲載、平成2年	〃
まくり	「おほきなる春 ^た 賜ひにけり祭町」	『天骨』掲載、平成12年	〃
まくり	「炎日に生(あ)れ天骨もなかりけり」	『天骨』掲載、平成12年	③
まくり	「海のもの皿に餘して弥生尽」		〃
まくり	「拈 ^{ねんげ} 華微笑 ^{みせう} 迦 ^{かせふ} 葉が背に晝 ^{せな} の月」	『夕薄暑』掲載、平成18年	〃
まくり	「巢 ^ね づくりに入りし燕や朝日光」		〃
まくり	「生きてあり覚めてありけり窓の雪」		〃
まくり	「田水見る男ひとりの日暮かな」	『天骨』掲載、平成10年 掲載は「…一人の…」	〃
まくり	「御岳に飛 ^た 天翔ちけり霧の海」	『春星』掲載、平成21年	〃
まくり	「新雪に足趾三つ生きてあり」	『夕薄暑』掲載、平成16年	〃
まくり	「圓かにも人語のもるる花月夜」		〃
まくり	「深雪晴人間万事本来空」		〃
まくり	「誰も居らず刈田彼誰時廣し」		〃
まくり	「野放途に影を育てて山萌 ^{めぐ} む」	『飛驒ならし』掲載、平成29年	〃
まくり	「脳天に鍼人の日の暮れにけり」	『飛驒ならし』掲載、平成28年	〃
まくり	「満作や尾を分けて水光り初む」	2019年2月 飛驒俳句会	〃
まくり	「大凍や天眼鏡に星の本」		〃
まくり	「葉月三日水の都に生 ^う を享く」	『春星』掲載、平成21年	〃